View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

鹿児島女子短期大学紀要
第45号（2010）103～108頁

「うさぎ」を題材とした身体表現の効果的な指導方法の研究２

― 言葉掛けと集団の効果に着目して ―

A Study of Effective Teaching Methods in the Physical Expression about [Rabbit] 2

― Focusing on the Effect of Verbal Instructions and Group Activities ―

小松恵理子　小川鮎子*　宮嶋郁恵**　青木理子***
Eriko KOMATSU　Ayuko OGAWA　Ikue MIYAJIMA　Riko AOKI

１．研究目的

表現とは，「感じたり考えたりしていることを，自分にも他人にも知覚できるような形にする」ことであるとされている[11]．

その知覚できる形にする方法の一つとして，身体表現があり，幼児の豊かな感性と創造性を高める表現活動として保育現場での実践がなされている．そのねらいを達成すべく，これまで幼児の豊かな身体表現活動を引き出す有効な手だてについて，養成校としてより実践的な指導法とは何かについて検討してきた．

これまで，その効果的な手立てとして，ロープ等の素材を用いることの有効性について検討し，指導のきっかけとしては素材を用いることが，多彩な動きや動きの発展に有効であるということを報告した[10]．しかし，素材を用いることで豊かなイメージを膨らませることができたかどうかについては明らかにすることができなかった．そのため，豊かなイメージを膨らませる手立てとして，どのような手立てがあるのかについて検討し，青木が「表現を引き出す手立て」として挙げる中から[1]視聴覚教材（VTR）を取り上げた．身体表現場面での VTR 視聴については，このような手立てがあるという内容の記述[1) 4)]が見られるが詳細な有効性についての検討が不足していると考えられる．

また，平成17年度に九州管内の保育者を対象にした調査では，身体表現活動を困難にしている外的要因として「幼児の生活体験の減少」ということが挙げられ，直接体験の不足と困難さが報告されている[3]．

これらのことから，前回は，直接体験を補う間接体験としての視覚的教材（VTR）による「動物（うさぎ）」の視聴前後でその表現方法がどのように変化するかを明らかにすることによって，豊かなイメージに裏打ちされた動きの引き出しに間接的体験である視聴覚教材の使用が有効であるかどうかについて検討した．

その結果，見た内容に影響されない飛躍的（仲間と遊ぶ・踊る等）なイメージが制限されるようであったがその反面，表現時間が長くなる・表現したい動きの個数が増加する・空間やリズム・スピードに変化が見られる等の結果が得られた．このように表現しようとする題材に

*佐賀女子短期大学　**福岡女子短期大学　***尚絅大学

関する視聴覚教材を提示することで，より豊かな表現へ導くことが可能であろうという報告が出来た．

本研究では，継続して，豊かな表現を引き出す手立てを明らかにするため，実験条件を「個人」からより現実の指導に近い「集団」に変更し，更に「言葉掛け」の条件を追加することで，養成校学生の身体表現がこれらの条件によってどのような影響を受けるかについて検討した．

【研究方法】

１．実験日：2008年11月16日・22日

２．被験者：保育者養成校に在学する学生（表現に関する授業を受けた期間が半期から１年以内の学生61名）

３．実験方法

＜全グループ＞：実験Ⅰ－１）「うさぎ」を題材に，５分間で思いつく動きを用紙に記入する．表現したい動きに順をつける．

＜グループ a＞：実験Ⅰ－２）アンケートをもとに５分間の「うさぎ」の身体表現を行い，その結果のVTR撮影を行った．

＜グループ c／d＞：実験Ⅱ「８分間のウサギ」の VTR の視聴後，実験Ⅰ－１）２）と同様の手順でアンケートを実施後，身体表現を VTR 収録した．また，表１に示すように＜グループ b／d＞では言葉掛けを加えた．

表１　手立てのパターン

グループ（手立て）	事前㋐	VTR視聴	ことば掛け	視聴後㋐	身体表現	終了後㋐
a：17名	有	無	無	無	有	有
b：14名	有	無	有	有	有	有
c：14名	有	有	無	有	有	有
d：16名	有	有	有	有	有	有

㋐：アンケート

４．分析項目：VTR 視聴前後の①表現時間②表現したい動きの個数③表現内容④空間変化（高さ）

５．検定方法

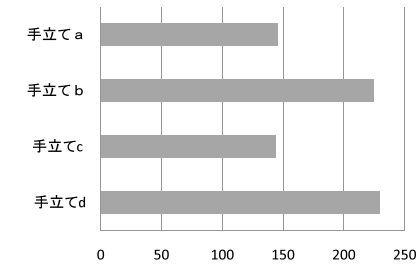
カイ二乗検定・対応のある T 検定

※VTR 内容は文末に掲載．

【結果と考察】

①表現時間

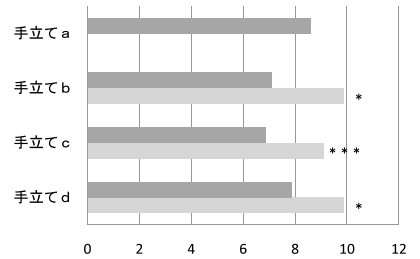
１・表現開始時より全員が表現を停止するまでの時間を表現時間とした結果を（図１）に示した．VTR 視聴にかかわらず言葉掛けがある方の表現時間が長くなるという結果が得られた．



（図１）表現時間（秒）

②動きの個数

アンケートに記載された表現したい動きの個数を集計した結果，②表現したい動きの個数は，図２・表２に示すように手立て bcd 群・言葉掛けをしたり，VTR 視聴をした方が有意に増加した．



（図２）動きの個数

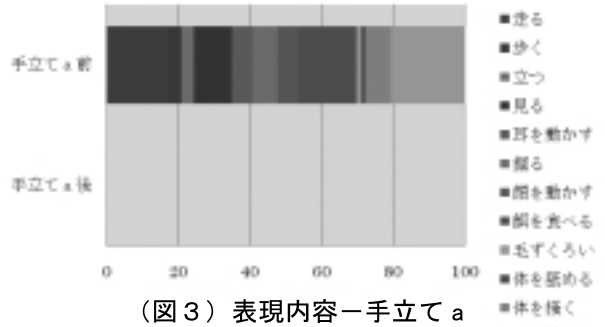
表２　イメージする動きの数の変化（身体表現の前後）アンケートによる判定

動きの個数	N 数	t 値	検定
グループ B	14	0.005	$p < 0.001$
グループ C	14	0.0204	$p < 0.01$
グループ D	16	0.255	$p < 0.05$

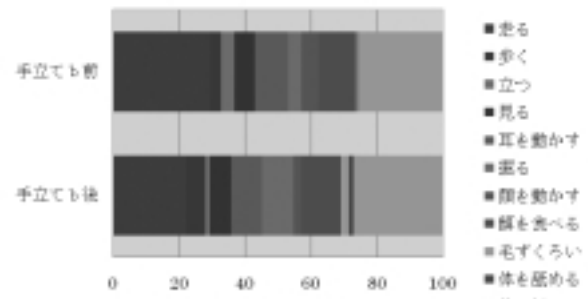
３・表現内容

についての結果を図３・４・５・６に示した．手立て b 群の言葉掛けでは，動きの典型例が多少減少するが，「その他」余りが減少していない．前回の個人 VTR 視聴後，「その他」（飛躍的なイメージや多様なイメージ）の部分が減少した結果と比較すると，言葉掛けがある方が，飛躍的なイメージや多様なイメージ保つことができるものと思われる．

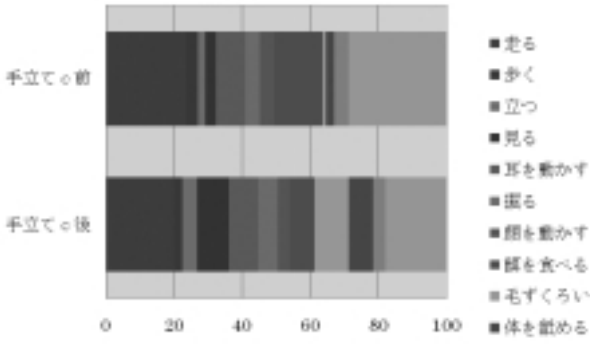
VTR 視聴のみの c 群では，「走る」「その他」減少し，前回個人の VTR 視聴と同様な結果を示して，視聴した内容に影響されていると思われる．VTR 視聴・言葉掛け方がある手立て d では，「その他」の部分があまり減少していなかったことを見ると，「走る」等の典型例が減少し，「毛づくろいをする」といったが図中間部増加しつつ，多様なイメージも保てるという VTR 視聴・言葉掛けの双方の効果の表れと考えることもできよう．



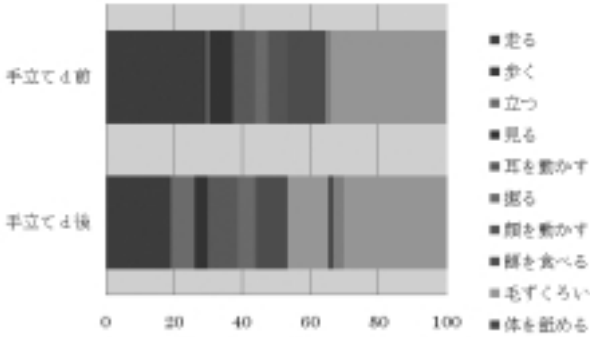
（図３）表現内容－手立てａ（%）



（図４）表現内容－手立てｂ（%）



（図５）表現内容－手だてｃ（%）



（図６）表現内容－手立てｄ（%）

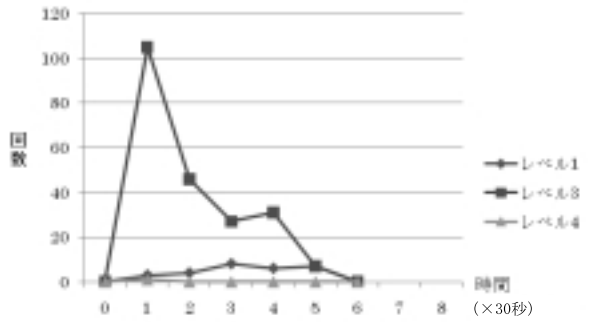
４・空間の変化（高さ）

空間の変化（高さ）に関してはその基準を表３に，また結果を図７・８・９・10に示した．手立て b/d での多様な変化が見られた．特に VTR 視聴・言葉掛けの両方の働きかけがある手立て d が最も多様な空間変化（高さ）が見られた．

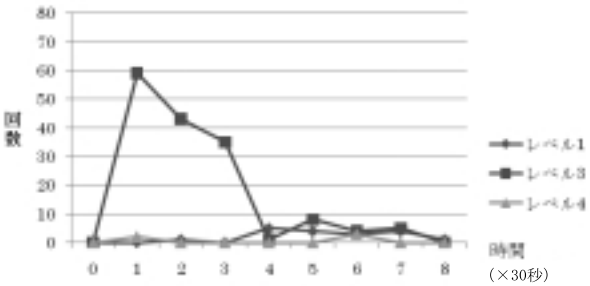
表３　高さのレベル

レベル	判定基準
4	立位・ジャンプ
3	膝立て
2	しゃがむ（手を着くを含む）・四つん這い
1	寝る・転がる（床への設置面が多い）

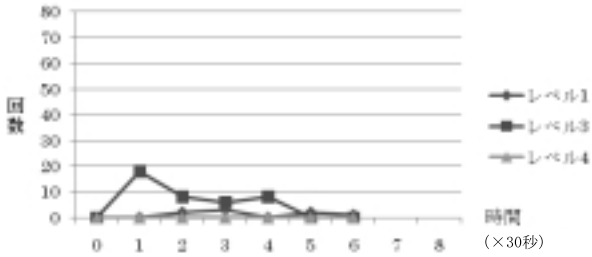
※レベル２を基準として，それよりも低い姿勢を＜レベル１＞レベル２よりも高い姿勢を各々＜レベル３＞（膝立て）レベ空間の変化（高さ）ル４（立位，ジャンプ）とした．



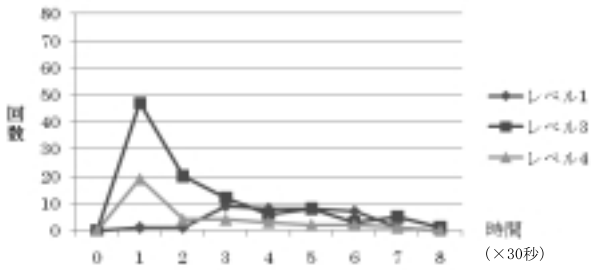
（図７）高さの変化－手だて a



（図８）高さの変化－手だて b



（図９）高さの変化－手だて c

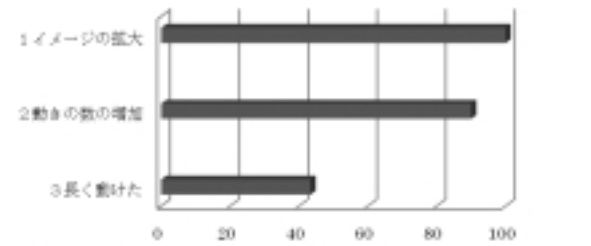


（図10）高さの変化－手だて d

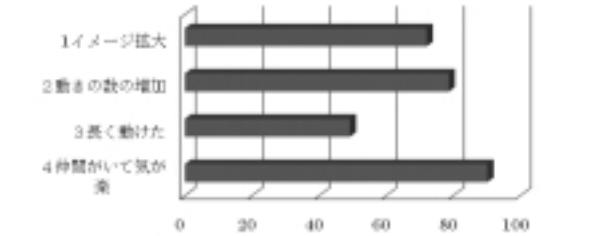
５・被験者へのアンケートにより，言葉掛けおよび集団の効果についてはアンケートを行った．

結果は図「仲間がいて気持ちが楽であった」という項目への肯定が最も多く，言葉掛けについては「イメージの拡大」という項目への肯定が最も多く見られた．

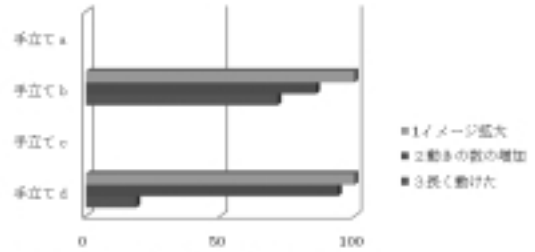
集団ではあるが VTR 視聴有無に関わらず，手立て ac 群では長く動けたという項目が低く，全体集計では40％で留まっているが，群別にみると長くたという回答が50％を超えている．長く豊かに動けるという面では言葉掛けの効果が大きいものと考えられる．



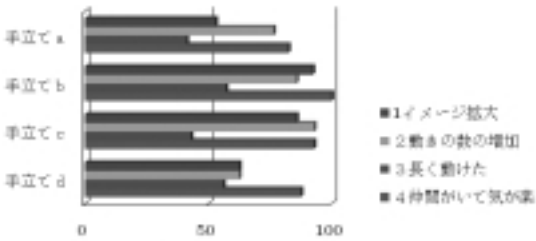
（図11）言葉かけの効果（％）



（図12）集団の効果（％）



（図13）手立て別言葉かけの効果（%）



（図14）手立て別集団の効果（%）

＜↑「うさぎ」の身体表現１：耳を動かす＞

＜↑「うさぎ」の身体表現２：餌を食べる＞

【まとめ】

今回は，豊かな表現を引き出す手立てを明らかにするため，実験条件を「個人」からより現実の指導に近い「集団」に変更し，更に「言葉掛け」の条件を追加することで，学生の身体表現がこれらの条件によってどのような影響を受けるかについて検討した。その結果，集団や言葉掛けによって，楽にイメージ豊かに表現できており，集団や言葉掛けの条件を削除した状態よりも，見た内容に影響されるプラス面と飛躍的なイメージや多様なイメージを削ぐというVTR 視聴のマイナス面を補い，より豊かな表現へと導くことができることが示唆された.

今後は，さらに多様なイメージを喚起し，より豊かな身体表現へ導くこともできるよう，言葉掛けの面に着目し，継続的研究としたい.

＜引用・参考文献＞

１）青木理子：「第４章　表現を引き出す手立て」　井上勝子・小川鮎子・小松恵理子・宮嶋郁恵他　著『豊かな感性を育む表現遊び―心と体を拓く―』 p33－36　㈱ぎょうせい　2005

２）青木理子・井上勝子・小川鮎子・小松恵理子・宮嶋郁恵他：「保育現場における動きによる表現の現状と課題―平成10年度調査との比較―　九州体育･スポーツ学会発表抄録　2006

３）青山優子：『学生の「表現遊び」の指導力を高めるための授業研究－実習後の振り返りより有効性を探る―』 第42回全国女子体育研究大会紀要　p40－43　2008

４）荒木恵美子：「第６章　求められる保育者の資質・技能　３項　身体による表現（２）」 角尾和子・角尾稔編著　『表現』 p178－182・p181　川島書店　1999

５）黒川健一：『第７章　領域「表現」のこれまでとこれから』『保育内容「表現」』 p197－215　ミネルバァ書房　2004

６）小川鮎子・青木理子・小松恵理子・宮嶋郁恵：『「ウサギ」を題材とした身体表現を引き出す手立て　その３　養成校の学生を対象に』日本保育学会第12回論文集　p130　2009
７）小松恵理子・青木理子・小川鮎子・宮嶋郁恵：『「ウサギ」を題材とした身体表現を引き出す手立て』　日本保育学会第61回論文集　p661　2008
８）下釜綾子・高原和子・瀧信子：「うさぎを題材にした身体表現を引き出す手立て　その１－４・５才児を対象に―」　日本保育学会第61回論文集　p660　2008
９）鈴木裕子：「幼児の身体表現におけるイメージと動きの相互作用―題材と言葉がけの違いの観点から―」　名古屋柳城短期大学紀要　第21号　p157－170　1999
10）宮嶋郁恵・青木理子・小松恵理子・下釜綾子・高原和子・瀧信子：「豊かな身体表現活動を引き出す素材の有効性について」　日本保育学会第60回論文集　p1162－1163　2007
11）村山久美子：「第４章　表現の発達と保育・教育　１項　表現のねらい」　角尾和子・角尾稔編著　『表現』　p91－95　川島書店　1999

視聴覚教材「うさぎ」（ＶＴＲ）の内容

番号	時間	チャプタータイトル	主な動きの内容
1	0～52?（52秒）	かいうさぎ	巣近くの岩肌に座り、顔を拭く。舐める。あちこち見る。穴の入り口で顔を出したり、入れたりする。岩肌を駆け上る。
2	～1′18″（26秒）	のうさぎ	跳ぶ。跳ねる。後ろ足で立つ。警戒する。
3	～2′24″（66秒）	よくきこえるよ	じっとして座り、耳を動かす。（きつね）
4	～3′26″（62秒）	はやいぞ	足を舐める。（犬鷲）雪面をﾊｼﾙ。様子を窺い、また走る。
5	～4′24″（58秒）	す	穴を出入りする。藪の中で静かに蹲（うずくまる）る。巣から出たり入ったりする。
6	～6′45″（141秒）	かいうさぎのあかちゃん	体の毛を抜く。赤ちゃんの寝床を作る。生まれたてのあかちゃんが蠢く。草を顔で動かす。口をモゴモゴ動かす。赤ちゃんうさぎが眠る。おっぱいを飲む。転がる。座る。頭の後ろを掻く。
7	～7′34″（49秒）	のうさぎのあかちゃん	藪の中であちこち見る。草を食べる。
8	～8′34″（60秒）	げんきなうさぎ	穴から出る。跳ぶ―止まる。周囲を窺う。岩の上をあちこち動き回る。

（2009年12月14日　受理）